

学校法人 滋慶学園 東京スクールオブミュージック専門学校渋谷 学校関係者評価委員会

平成29年度自己点検自己評価(平成29年4月1日～平成30年3月31日)による

大項目	自己評価	総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価委員からのご意見
	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1				適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
1 教育理念・目的・育人人材像	4	<p>学校法人滋慶学園 東京スクールオブミュージック専門学校渋谷(TSM渋谷)は、学校法人滋慶学園グループ(※1)に属し、「職業人教育を通じて社会に貢献していく」ことをミッション(使命)としている。</p> <p>「3つの建学の理念」「実学教育」(※2)「人間教育」(※3)「国際教育」(※4)を実践し、「4つの信頼」(①学生・保護者からの信頼 ②高等学校からの信頼 ③業界からの信頼 ④地域からの信頼)を得られるように学校運営をしている。</p> <p>建学の理念に基づき、東京スクールオブミュージック専門学校渋谷は、『音楽&エンタテインメントを通して、人に喜びや感動を与えられる「即戦力」の人材として就職&デビューすること」を目的に学校運営をしている。</p> <p>現在、音楽&エンタテインメント業界を取り巻く社会の環境は大きく変化している。『産学連携教育システム』業界に必要な人材を業界と共に育成していくを教育の柱にし、業界・企業との連携を深め人材の育成を実現してきた。</p> <p>また、社会人基礎力は、もちろんのこと職業の現場で求められる知識・技術の高度化や、より付加価値の高い人材の必要性を背景に、本校では、2年制課程のみならず、3年制課程も設置し、キャリア教育の充実を図っている。</p> <p>そして「国際教育」に基づき、国内だけでなく世界で活躍できるグローバルな人材育成にも力を入れると共に、「TSM渋谷」としてのブランド確立を目指す。</p>	<p>音楽&エンタテインメント業界が求める「即戦力」として活躍出来る人材育成のために「産学協同教育」のさらなる向上を図り実践している。</p> <p>企業とのつながりをより強固のものとし、学校の教育により理解を深めていただくことで、業界が求める人材に最も近い育成に努める。</p> <p>そのための新たな「企業プロジェクト(現場実習、企業課題)」を企業とともに構築していく。</p> <p>また、時代の変化に対応するため、常に業界からの意見を取り入れ、カリキュラムの改善を図っていく。</p>	<p>昭和51年の創立以来、「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことを目的に、全国に専門学校・教育機関を設置し、建学時から変わらない「3つの理念」(実学教育、人間教育、国際教育)を実践することで、「4つの信頼」(学生・保護者からの信頼、高等学校からの信頼、業界からの信頼、地域からの信頼)を得るコンセプトを掲げ、業界に必要な人材を業界と共に育成してきました。</p> <p>医療・福祉・美容・調理・製菓・パイオ・スポーツ・クリエイティブ・エコ・音楽・ダンス等、多岐にわたる分野で全国展開をおこなっており、スケールメリットを活かし様々な学校間において連携教育を実践している。</p> <p>※2)「実学教育」 スペシャリストが求められる時代に即し、業界に必要な人材を業界と共に育成する専門学校として、即戦力となる知識・技術・現場力を教授する。一人一人の個性を活かし、それぞれの業界で力が発揮できるように構築してきました。</p> <p>※3)「人間教育」 キャリア教育の一環として、開校以来、『今日も笑顔で挨拶を』を標語に掲げ、他人への思いやりの気持ちやコミュニケーション能力、リーダーシップがとれる対人スキル等を身につけ、同時にプロ・社会人としての身構え、心構え・気構えを養成する。</p> <p>※4)「国際教育」 コミュニケーション言語としての英語を身につけるだけでなく、日本人としてのアイデンティティを確立した上で、広い視野でモノを捉える国際的感性を養う。</p>	<p>【評価点：4】</p> <p>専門学校が増加する一方で「少子化問題」も深刻。他校と差別化できる明確な「ブランド力」や「特性」を強く打ち出す必要を感じる。(池田氏)</p> <p>一貫した、揺らぐことのない理念をしっかりと持っている。(勝守氏)</p> <p>「実学教育」「人間教育」に関しては素晴らしい実績をあげていると思う。「国際教育」に関してより力を入れて欲しい。(富氏)</p> <p>この3つの建学の理念は共感出来る。産学共同教育として、学生にとってもより有意義な場を作っていたきたい。(川崎氏)</p> <p>3つの建学の理念の実践の他、4つの信頼を得られるようにこの運営、取り組みはとても素晴らしいと評価できる。(上田氏)</p>
2 学校運営	4	<p>滋慶学園グループが計画する5ヵ年計画を受け、各校は具体的に各年度事業計画書を作成し、その中で5年後の将来像等構想を描いている。</p> <p>社会(諸環境)の変化に対応できるように、滋慶学園グループの示す毎年の長期・中期・短期展望を基に、滋慶COMグループに属する各学校が、短期事業計画を毎年作成している。この事業計画書が各学校における運営の核となるものである。</p> <p>事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決済を受け、承認を得ている。それを受け、各学校では毎年3月に事業計画を全教職員へ周知徹底するための研修も行っている。</p> <p>事業計画においては、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取り組み、職務分掌、各種会議及び研修等々についてが明確に記載されている。</p> <p>運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点にたって行われる。事業計画書の組織図には学校に係わる人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。</p> <p>学校がもっとも大切にしていることとして、滋慶学園グループの中期・短期の事業計画に沿って採用と人材育成を行い、様々な研修において目標達成に向け、スタッフのスキル面とマインド面の向上を図り、また関わるすべての人が学校の方向性、学校の方針の実現に向けて同じ方向を向くために、各種研修や会議、ミーティングにより、コミュニケーションの重要性を確認している。</p>	<p>さらにより良い学校運営を構築していくために、滋慶学園グループの長期・中期・短期展望をしっかりと落とし込み、自校の事業計画を綿密に立てる。</p> <p>またその事業計画に基づき目標を達成するため、様々な研修や会議をより強化し実践していく。</p> <p>様々な研修においては、目標達成のためにスタッフのスキル面とマインド面の向上を図り、また講師も含め学校に関わる全ての人々が学校の方向性、方針を理解し実現するため、各種研修や会議によりコミュニケーションと意見交換を重要視し、さらに徹底していく。</p> <p>そして、業界の要望(社会の変化)に対し即座に対応出来るようにするためにも、業界も交えた意見交換を頻繁に図っていく。</p>	<p>各学校における事業計画書は、広報・教務・就職と、学校におけるすべての部署について考えられ、また、すべての部署が同じ方針・考え方を理解し、徹底している。</p> <p>学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、様々な研修や会議が設けられ、この研修、会議を通じて、個人個人の目標設定及び業務への落とし込みを行い、また常に方向性、位置づけ等を確認できるシステムを構築している。</p>	<p>【評価点：4】</p> <p>しっかりとした理念のもと、運営されていると評価する。(勝守氏)</p> <p>音楽系だけの学校にありがちな偏りがなく、総合的に素晴らしい学校運営がなされていると評価できる。(上田氏)</p> <p>事業計画を全職員に更に周知していただきたい。(菅野氏)</p>

<p>3 教育活動</p>	<p>3</p>	<p>本校の目的である職業人教育は、常に業界と密接な関連を持たなければ、教育目標、育成人材像は正しく方向づけられないと考えており、業界の人材行動を常にキャッチし、その変化に対応して養成目的や教育目標の見直しを毎年実施している。</p> <p>本校は教育システムとして、独自の「産学連携教育システム」を構築しており、「キャリア教育」の視点に立ったものになっている。授業改善、教職員・講師の資質向上等を目的とし、授業評価を実施しているが、これを通して講師や学生の状況を正確に把握し、総合的な判断ができる要因となっている。</p> <p>成績評価の基準を明確にし、学生指導を行っているが、明確な基準と共に、柔軟な対応ができる余地を残すことで、すべての学生が学科の目標を達成した上で、進級・卒業できるサポート体制を作っている。</p> <p>資格取得については、業務を行う上で必要な資格、就職に有利な資格という範囲で取得に向け支援を行っている。例えば、レコーディングエンジニアコースではJAPRSサウンド&レコーディング技術認定試験、音響(PAエンジニア)においては3級舞台機構調整技能検定、照明においては2級照明家協会技能検定試験への合格をそれぞれ指導している。</p>	<p>在校中の教育活動は充実しているが、生涯教育として今後は卒業後支援をより強化していく必要がある。</p> <p>例えば卒業デビューを果たした学生(及び継続し目指す学生)の場合、安定するまでに時間もかかることが多く、継続的な学校支援が必要となる。</p> <p>卒業サポートの1つとしてホームページに開設した「デビューバンク」においても、企業からのオファーがさらにかかるような、より良い中身の改善・構築を行っていく。</p> <p>また就職した学生においては、早期離職者が出ないように卒業後も細やかな声掛け(フォロー)が出来るように、卒業生の連絡先の把握と、企業へのリサーチも同時に行っていく。</p> <p>デビュー、就職の両方において、学内でのオーディション、企業からの仕事のオファー、求人情報、転職情報など、Facebookの同窓会ページのさらなる情報の拡大等も行っていく。</p>	<p>本校の教育の柱である「業界に必要な人材を業界と共に育成する」産学協同教育により、即戦力としての実践的技術・知識、ビジネスマインド等を身につける。企業プロジェクトでは、企業からの課題や企業が実践する現場に学生たちが参加することで「現場力」を身に付ける。</p> <p>また、業界研修、海外実学研修、特別ゼミ、キャリアセンター・デビューセンターなどを充実させている。</p> <p>教育システムのさらなる開発・充実のため、滋慶COMグループの音楽&エンタテインメント系全校から構成する「パフォーミングアーツ教育部会」を設置し、システムの共有化、レベル向上化を図っている。</p> <p>主な研究内容は、①教育指導法・技法の開発 ②カリキュラム検討 ③生涯教育プログラム ④教職員研修 ⑤国際教育システム開発 ⑥イベント・卒業研究の運営等である。</p> <p>キャリア教育の一環として行なわれる、入学前の自己発見・入学後の自己変革・卒業後の自己確立という、自己3段階教育と、動機づけ・目的意識づけプログラムである。入学前からの一貫した育成システムと目的意識をもって取り組むプログラムの組み合わせにより、モチベーション向上を果たし、プロ・職業人としての気構え・身構え・心構えを身に付けてさせることである。</p>	<p>【評価点：3】</p> <p>固定観念にとらわれず、その時代に合ったシステムなりを取り入れることが大切と考える。(池田氏)</p> <p>卒業後のフォローも素晴らしいと評価できる。(松本氏)</p> <p>産学協同教育システムもとても上手く機能しているものと評価する。(勝守氏)</p> <p>3級舞台機構調整技能士はエンターテインメント唯一の国家資格なので、もっとホームページ等でアピールする必要がある。(小瀬氏)</p> <p>即戦力となる為の「現場力」を身につける教育は評価できる。但し、せっかく就職したにも関わらず長続きせず離職する、業界を離れてしまうケースが見られる。その改善に努めて欲しい。(富氏)</p>
<p>4 教育成果</p>	<p>3</p>	<p>滋慶学園の組織目的である「職業人教育を通じて社会に貢献する」を達成するための教育成果を定数目標として設定している。</p> <p>導入教育から一人ひとりに合わせたカリキュラムづくりを念頭に、産学連携教育の充実など様々な取り組みの努力を重ね、今後も学生個々の徹底したフォロー、カリキュラムの工夫、担任制度の強化、学生カウンセリングの強化等々を実施している。</p> <p>また、卒業後の進路として、就職希望者・デビュー希望者に向けたプログラムを通じて支援を行っている。専門就職率、就職希望者率の向上も課題として取り組んでいる。また、デビューセンターを開設し、デビューを希望する学生を卒業後もフォローし、卒業もデビュー者が増加している。</p>	<p>就職イベント(就職出陣式、業界セミナー等)の内容、開催時期を再考し、より学生の就労意識、職業感、業界理解を促すことで、さらなる早期就職率のアップを目指す。</p> <p>またキャリアセンター担当者が就職活動面接も頻繁に行い、学生それぞれの志望職種や企業を明確にし、個々の目標設定していくことで専門就職の向上を図っている。</p> <p>デビューにおいては就職同様に現在デビューガイドスを行っており、デビューに向けて必要な心構えなどを受け付けるため、業界人を招き実施し学生の意識向上を図っているが、その内容の工夫にも着手していく。</p> <p>また企業訪問をより強化することで、企業プロジェクトのさらなる構築とともに、求人者のさらなる獲得を目指す。</p>	<p>「職業人教育を通じて社会に貢献する」滋慶学園グループの教育成果の1つである就職は、キャリアセンターを中心とし、年々専門就職率が向上しているが、努力を続けている。また、もうひとつの出口であるデビューに向けて、デビューセンターの強化を行い、企業との連携・プロジェクトの充実・サポート制度などを確立している。</p> <p>「国際教育」の観点より、グローバル人材の育成を目的に、MIP(ミュージシャンインターナショナルプログラム)を実施、音楽・エンターテインメントの本場アメリカより現役のミュージシャンを招き、日本にいながら一流のテクニックを学べる機会としてだけでなく、語学力や身構え・気構え・心構えなどマインド面の育成にも力をいれた教育プログラムを実践している。</p> <p>卒業後のサポートも行っており、求人票の告知・オーディション情報を提供し、就職希望者率の向上や卒業後の就職・デビューサポートの充実を図っている。</p> <p>学生が目標を達成できるよう、保護者の方々と三位一体での支援体制を実践。</p> <p>退学率では、目標に向けたカウンセリングの強化・目標の変更に对应するため転校・転科等進路変更説明会、学費相談会・保護者会の充実・講師との学生が抱える問題の共有などの学生の「なぜ？」に答える」をキーワードに現状以上に体制を整えていく。</p>	<p>【評価点：3】</p> <p>毎年優秀な人材を、多数音楽業界に送り出せていると評価できる。(勝守氏)</p> <p>音楽関係の職に就く事は、業種の特異性からいって難しいと思うが、しっかりと成果を出していると評価できる。(上田氏)</p> <p>専門職種への就職向上とデビューセンターの強化とともに、卒業後のフォローも継続的に行って欲しい。(菅野氏)</p>

<p>5 学生支援</p>	<p>4</p>	<p>学生が目標を達成するための支援には、学業の面と生活環境面を整備していくことで支援に繋がると考える。しかし、支援はあくまでも支援である。例えば、健康の維持は学業目標達成には欠かせない事項であり、本校でも健康診断にとどまらず、多くの支援体制を築き上げているが、学生本人が健康管理についての自覚を持たない場合、支援は効果がない。それゆえ、学生支援はまず学生の自立的行動を促すことから始めている。</p> <p>学生支援には、① 就職・デビュー ② 学業 ③ 学生生活 ④ 健康 ⑤ 学費 ⑥ 保護者連携 ⑦ 卒業支援などの分野で行っているが、それぞれの分野で対応できる担当部署及び担当者も置いている。</p> <p>① 就職については、専門部署であるキャリアセンターを設置し、担任との強い連携をとりながら、就職の相談、斡旋、面接他各種指導などの支援をしている。また、デビューでは、デビューセンターを設置し、企業の招聘・オーディションの開催・プログラムの充実を図り支援している。</p> <p>② 学業については、担任が授業の出席状況などを逐一把握し声掛けをしている。また各授業を受け持つ講師との連携も徹底し、学生の動向を把握、支援している。</p> <p>③ 学生生活については、各担任を中心に、別途精神的ケアのためのSSC(スチューデント・サービス・センター)という悩みや相談を受ける専門部署を置き支援し、学業と併せて中途退学にならないよう支援している。</p> <p>④ 健康については、滋慶学園グループのクリニックである慶生会クリニック(葛西)が担当し、在学中の健康管理を支援している。</p> <p>⑤ 学費については、相談窓口として事務局会計課を置き、提供できる学費面でのサービスをアドバイスするファイナンシャルアドバイザーにより支援している。</p> <p>⑥ 保護者連携については、入学前、そして入学後についても保護者会を開催し、本校の取り組みへの理解と、現状報告を行い、目標を共有し、学校と保護者が連携して学生の支援が行える体制作りを整えている。</p> <p>⑦ 卒業支援については、キャリアセンターが事務局となって実施する同窓会他、デビューセンターが中心となっているデビュー支援など、生涯にわたって支援を継続していく。</p>	<p>学生個々の徹底したフォロー、担任・保護者・カウンセラーとの連携、カリキュラムの工夫、担任力の強化を継続していく。</p> <p>中途退学については、精神的な問題や経済的な問題が増えている昨今、保護者やSSC(スチューデント・サービス・センター)などとの連携がより重要視されている。そのため入学時のサポートアンケートなどを実施し、学生個々の性格や特長を把握し対応しているが、もっと細やかなケアを実施していく必要がある。</p> <p>また学校からの支援だけでなく、学生同士の支え合い、居場所づくりも重要となるため、サークル活動の推進や、オリエンテーションの実施。また学生代教者が集う「学友会」が提案するイベントの実施など、幅広い支援を展開していく。</p>	<p>滋慶学園グループでは、「一人ひとりを大切に」という考えのもと教育にあたっているが、本校でも学生を第一に考え、様々な支援体制を整備している。</p> <p>その中でも、「就職・デビュー」は学生が目標を達成し、業界で活躍するための最重要事項であり、本校では非常に力を入れており、キャリアセンター、デビューセンターという専門部署を置き、専任のスタッフを配置している。</p> <p>キャリアセンターは、業界現場での実践研修である「業界研修」のコーディネートから、個別相談、就職対策講座、就職支援イベント開催、就職斡旋等々、就職に関するあらゆる支援を行っている。また、求人情報等を学生が自宅のパソコンでも閲覧できる就職支援システム「サクセスナビ」、一斉メールなどシステムの構築し、迅速な対応ができるように支援している。</p> <p>デビューにおいてはデビューセンターが設置され、オーディション情報の整備やデビューするためのプログラムづくり、また新人発掘プレゼンテーションでは、毎年累計600社を超える企業が学校に来場し、学生が企業とつながる機会を作っている。また、卒業の支援活動の強化を行い、目標の職業につながるように支援を行なっている。</p> <p>「就職」と並ぶ重要項目である、「教育」については、教育環境を整備し、成果を上げている。即戦力の人材を育成するための施設・設備、機材等々を完備し、また業界ニーズとブレのないカリキュラムの構築、業界第一線で活躍する講師陣による授業など、オンリーワンを目指す学校として十二分な体制を確立している。</p> <p>また、精神的に、あるいは肉体的にもクラスの授業についていけないなどの問題を抱えた学生のため、SSC(スチューデント・サービス・センター)を設置し、スクールカウンセラーがカウンセリングを行うなどサポートをし、卒業まで導き退学率減少に繋がっている。</p> <p>他にも、まだ日本語に不慣れな留学生に対しては、日本語対策という授業を別途設けフォローアップしている。</p>	<p>【評価点：4】</p> <p>デリケートな年代につき、精神面でのケアはかなり大切。その中での対応状況は評価できる。(松本氏)</p> <p>学生生活を充実した環境で過ごせるような、細やかなケアがなされていると評価する。(上田氏)</p> <p>キャリアセンターを中心に、担任と連携を取りながら退学率減少に努めていただきたい。(菅野氏)</p>
<p>6 教育環境</p>	<p>3</p>	<p>施設・設備、機材等は業界で即戦力となり得る人材を育成するためのものがあり、最新・最良のものを完備する考えで運営しており、教育上、充分な対応ができていると考える。毎年、事業計画をおこない、予算を計上し、ほぼ計画通りに更新もできている。</p> <p>本校は即戦力の人材育成を目的としており、そのための教育体制は整備されている。特に業界研修(インターンシップ)においては、企業側と綿密な連携をとり、十二分な学習環境を設定している。また、海外実学研修では、それぞれの専攻等において大きな学習効果の得られる教育機関、企業と連携し、ワークショップ他を行っており、充分な教育体制を整備していると考えられる。</p> <p>本校では、教職員が常に災害を意識している。毎年、教職員、学生の防災訓練を実施し、地震や津波、火災等の際の避難訓練経路を確認するなど、防災体制を確立し、チェックしている。</p>	<p>パソコン等の設備は日進月歩で常に新しいものが開発されている。また他にも音楽に関係する機材にも同様なことが言えるために、より業界と連携し、最適な学習環境を提供するために、常に優先順位を決めて対応していく必要がある。</p> <p>休憩スペースについては、時間によって非常に混雑することもあるため、スペースの効率的な利用方法を模索したり、学生の時間管理によって別途スペースを設けるなどの対応策を考え、学生満足度を高めていく。</p> <p>また教材には「iPad」も取り入れ、ポートフォリオ(自己作品集)として即座に自分をプレゼンテーション出来るような教育的効果も図っているが、SNSの問題等新たな課題が生まれているので、そのような点でも業界マナーとしての指導強化に努める必要がある。</p>	<p>本校では常に教育効果を考慮し、現状の業界環境と今後の展望をリサーチの上、機材等の購入を実施している。また、PC関連機材についてはメンテナンスが重要であり、学園サポート企業と綿密な連携を計りその対応にあたっている。</p> <p>業界研修(インターンシップ)の教育効果と成果は非常に高いものがあるが、単なる学習の場としてだけではなく、毎年、この研修から多くの就職内定に結びついている。また、海外研修は本校の建学理念の1つである「国際教育」実現に大きな役割を果たしている。</p> <p>教職員対象の防火訓練、教職員・学生対象の避難訓練を毎年実施し、災害に備えている。そのため、マニュアルを整備し、教職員の役割分担作成・確認、学生への情報提供など、体制は整備されている。</p> <p>毎年、事業計画で計画し、予算計上の上、計画通りに購入・更新等を行っているが、これ以外の学外教育環境も教務部、キャリアセンター、国際部が一丸となって整備しており、これは本校の大きな強みと考えている。</p>	<p>【評価点：3】</p> <p>我々の時代の「常識」にとらわれることない、柔軟な取り組みが必要だと考える。(池田氏)</p> <p>機材の修理や、徹底した機材管理を望む。(西川氏)</p> <p>常に新しく優れた機材を準備しようと考えている学校の姿勢は大変評価出来る。後は細やかなメンテナンスをする環境を望む。(勝守氏)</p> <p>機材購入等は担当講師としっかりと相談し、シラバスに従って購入計画を立てて欲しい。(小瀬氏)</p> <p>学外環境はしっかりと整っていると評価する。(川崎氏)</p> <p>設備、機材等は同種他校と比較しても非常に充実していると評価できる。(上田氏)</p> <p>今後も業界研修(インターンシップ)の教育効果と成果に期待する。(菅野氏)</p>

<p>7 学生の募集と受け入れ</p>	<p>4</p>	<p>本校は、東京都専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(AO 入試等)を遵守している。また過大な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適切な学校募集ができるように配慮している。</p> <p>さらに、広告倫理委員会を設置し、広報活動の適切さをチェックしている。広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページを活用して、学校告知を実施し、教育内容を正しく知ってもらうように努めている。</p> <p>これらすべての広報活動等において収集した個人情報・出願・新入生の個人情報等本校に関わるものの個人情報、校内に個人情報委員会を設置し、厳重に管理し、流出及び他目的に使用しないように、管理の徹底を図っている。</p> <p>入学選考に関しては、出願受付及び選考日を学生募集要項に明示し、決められた日程に実施しているが、入学選考後は、「入学選考会議」により、可否を決定する。</p> <p>なお、本校における入学選考は、学生募集要項にも明示している通り、「面接選考」及び「書類選考」であるが、その基準となるのは、「目的意識」である。将来目指す業界への職業意識や具体的な目標がしっかりしているかを確認すると共に、その目的が本校より提供する教育プログラム及びカリキュラムにおいて実現可能かを確認するもので、入学試験という名称のもと、学科試験を行うものではない。</p> <p>学納金や預かり金、教材等の見直しを毎年行っており、学費及び諸経費の無駄な支出をチェックしている。</p> <p>保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を学生募集要項に明記し、基本的に期中で追加徴収を行わない。</p>	<p>本校の強みである、専門就職実績とデビュー実績、またそれに伴う卒業生の活躍は教育成果として打ち出しを強化しており、充分にかつ正確に伝えられていると考えている。またそれを今後も徹底して行く。</p> <p>資料請求媒体誌、学校案内書、ホームページ、説明会等、一貫性のある学生募集活動を展開していることで、教育成果はより明確になっていると考ええる。またそれを今後も徹底して行く。</p> <p>(総括にも記載のある)これらすべての広報活動等において収集した個人情報・出願・新入生の個人情報等本校に関わるものの個人情報、校内に個人情報保護委員会を設置し、厳重に管理し、流出及び他目的に使用しないように、管理をさらに徹底をさせる。</p>	<p>学生募集については、募集開始時期、募集内容等ルールを遵守し、また、過大な広告を一切排除し、厳正な学生募集に配慮している。</p> <p>広報活動では「学校の特色を理解してもらう」ことを強化している。</p> <p>本校は専門就職を果たしてもらうことを第一目標としているため、入学前に職業イメージをどれだけ明確になっているかが大切と考え、職業体験や説明会への複数回参加を促し、充分理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。</p> <p>教育成果として、高い専門就職実績と卒業生の活躍の打ち出しを強化しており、学生募集上の効果はかなり高いと考えるが、それゆえ、過大な広告にならないよう、学内に広告倫理委員会を設置し、事務局長、広報主任等が常にチェックしている。</p> <p>本校は、一般社団法人日本プライバシー認証機構「TRUSTe」の国際規程の認証を受けている。</p>	<p>【評価点：4】</p> <p>しっかりとした募集プログラムを組んでいると評価できる。(川崎氏)</p> <p>年間を通じての学校を理解し、本当に納得した上で出願してもらおうという取り組みや体制は素晴らしいものと評価する。(上田氏)</p>
<p>8 財務</p>	<p>4</p>	<p>5か年の予算は、5か年を見越した中長期的事業計画内で、新学科構想、設備支出等について計画し、将来の学生数、広報・就職計画を鑑みながら予測し、収支計画を作成するが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするため、より現実に対応した予算編成となっており、健全な学校運営ができていると考えている。</p> <p>会計監査は、法人及び学校の利害関係者に対して、法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために、第三者による監査人が法人とは独立し計算書類が適切かどうかを監査することを意味する。</p> <p>平成17年4月から私立学校法が改正され、学校法人の財務情報公開が義務づけられたが、これに迅速に取り組み、「財務情報公開規程」及び情報公開マニュアルを作成し、現在に至っているが、財務情報公開の体制は整った。</p> <p>財務は、学校運営に関して、重要な要素の1つである。その中で予算(収支計画)は学校運営に不可欠なものであって、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成する必要がある。</p> <p>毎年、次年度事業計画を作成し、その事業計画の中に5ヶ年の収支予算を立てているが、次年度の収支予算はもちろんのこと、中長期的に予算を立てることによって、学校の財務基盤を安定させるための計画を事前に組んでおくのが目的である。</p>	<p>予算を正確かつ実現可能なものにするための2つの要素がある。</p> <p>①正確かつ実現可能な予算の作成</p> <p>予算は短期的、中長期的の2種類がある。短期的は次期1期間のもの、中長期的は2～5年間のものである。当学校法人及び学校では、短期的と中長期的の両方を事業計画書として作成し、短期的視野と中長期的視野の2つの観点から予算編成している。短期的な予算編成は当年度の実績を基礎に次年度に予定している業務計画を加味して行われる。中長期的な予算編成は主として大規模な計画を視野に入れた上で、業界の情勢を読み取りながら行われる。</p> <p>正確かつ実現可能な予算作成のためには、一旦作成した予算が現実のものとならずに修正される必要が出てくる。そのために短期的な予算においては期中に「修正予算」を組み、中長期的な予算においては毎年編成しなおすこととしている。これにより、短期的にも中長期的にも正確かつ実現可能な予算編成を組み合わせることができる。</p> <p>②①のための体制作り</p> <p>①のように実現可能な予算作成するためには、その体制作りが必要になる。</p> <p>事業計画・予算は学校責任者が協議して作成し、滋慶学園本部がチェックし、修正して最終的に理事会・評議員会が承認する体制を整えている。</p> <p>さらに、予算に基づいて学校運営がなされているかどうかは四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者と学園本部が協議し予算と実績が乖離しているようであれば修正予算を編成し、理事会・評議員会の承認を得る。</p> <p>作成した決算書、事業報告書については、情報公開の対象となり、利害関係者の閲覧に供することとなる。</p>	<p>【評価点：4】</p> <p>予算を短期的、中長期的に作成・実行していることを評価するとともに、今後のチェック体制を強化して欲しい。(菅野氏)</p>	

<p>9 法令等の遵守</p>	<p>4</p>	<p>法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。</p> <p>法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。現状では、学校運営(学科運営)が適切かどうかは次ぎの各調査等においてチェックできるようにしている。</p> <p>① 学校法人調査 ② 自己点検・自己評価 ③ 学校基礎調査 ④ 専修学校各種学校調査等である。</p> <p>組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。</p> <p>(A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ)</p> <p>(B)システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ)</p> <p>滋慶学園グループ、滋慶学園COMグループと全体というスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健全な学校(学科)運営ができるようにしている。</p>	<p>法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できている。</p> <p>教職員が学園の方針を理解し、実行に努める。</p>	<p>すべての法令を遵守するとともに、社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。</p> <p>方針実行のため、学内にコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを確実に実践・推進に当たらせることにした。</p> <p>委員長は、統括責任者としての学校の役員が就任する。委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。</p> <p>主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発の防止対策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書等の作成・配布である。</p>	<p>【評価点：4】</p> <p>定期的な報告を望む。(小瀬氏)</p>
<p>10 社会貢献・地域貢献</p>	<p>4</p>	<p>滋慶学園グループの「職業人教育を通じて社会に貢献する」を実現のために3つの建学理念を實踐し、「4つの信頼」(①学生・保護者からの信頼 ②高等学校からの信頼 ③業界からの信頼 ④地域からの信頼)を得るコンセプトがあり、この「4つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。</p> <p>例えば、100回を超える骨髄移植推進キャンペーンミュージカル「明日への扉」では、骨髄移植推進財団の後援・厚生労働省の推薦、業界企業や団体からの支援をいただき、出演・運営・制作の全てを学生が作り上げ、骨髄移植の理解と売り上げを募金する活動を行っている。また、来場者には多くの著名人や中学・高校の総合学習の時間を使った観覧があり、命の大切・素晴らしさを訴えている。</p> <p>市民イベント、また地域の方々が行うイベントへの参加・出演を行ったり、渋谷の街の花壇清掃などを通じ、「地域からの信頼」につながるよう努力している。</p> <p>また、本校スタッフ・本校講師・卒業生が高校へ出向いて行う特別講義、部活動支援等では、「高等学校からの信頼」につながるよう努力している。</p> <p>滋慶学園グループが推進する「地球温暖化防止対策」運動で節電、冷房温度28度設定、階段利用(2アップ3ダウン)や、イベント等におけるゴミ削減、資源有効利用等々を行っている。</p> <p>それらの教育活動を通じて「学生・保護者の信頼」につながるよう努力するようになっている。特別なことをするわけではなく、滋慶学園グループが掲げる「4つの信頼」の獲得を目指すことが、すなわち社会貢献を果たすことに繋がっていると考えている。</p>	<p>音楽&エンターテインメントはそれを通じ、多くの人々に「喜び」「楽しみ」「感動」を与えられるものとして、学校は学生と一緒に社会に貢献できるイベント等をこれからも構築していく。</p> <p>また「学園祭」などを開催することで、「渋谷」にある音楽&エンターテインメント業界を目指す専門学校「TSM渋谷」を広く知ってもらいながら、「渋谷」という街のさらなる活性化を目指し、高等学校や地域とともに協力体制を整え、イベント開催などを通じて貢献することに力を入れていく。</p>	<p>本校では、教職員及び学生たちが、常に社会貢献を意識した活動を行っている。「学生・保護者からの信頼」、「高等学校からの信頼」、「業界からの信頼」、「地域からの信頼」という、滋慶学園グループの「4つの信頼」獲得に繋がりが、その結果が社会貢献を果たすことに繋がっている。</p> <p>地域への貢献では、花壇清掃やイベントへの機材提供などでできることから支援活動を行っている。</p> <p>また渋谷という街の活性化を図るイベント「渋谷音楽祭」への参加も積極的に取り組み、多くの来校された人々に音楽を通じてその素晴らしさを伝えることが出来たと考える。</p> <p>このような活動を今後は、学校の施設や教育ノウハウ等を更に活かし、社会貢献へ発展させていく考えである。</p>	<p>【評価点：4】</p> <p>渋谷地区との密着度を意識した学校運営は評価できる。特に渋谷は日本のトレンドを引っばっていく重要な街であると思うので更なる強化を図って欲しい。(池田氏)</p> <p>エンターテインメントの街にある貴校だからこそできる社会貢献をし、渋谷という地域活性化に努めて欲しい。(向田氏)</p>